

風薫る新緑の季節、ユーザーの皆様には新学期が始まり、ますますお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。このPFニュースの「施設だより」を執筆させて頂くもの今回で3年目になります。この間に、PFを取り巻く環境も大きく変化してきました。大学共同利用や産業利用、そして人材育成において、これまでPFが果たしてきた役割を引き継ぎ、さらにこれを発展させるためには、どのようなPF将来計画が最適であるのか考え続ける日々を送っています。「希望とは自分が変わること」という言葉がありますが、放射光コミュニティの意向に従い、PFが変わっていくことが希望につながると考えています。どのように変わるべきかについて、ユーザーの皆様と十分にコミュニケーションを取っていきたいと思います。今年度もどうぞ宜しくお願い致します。

さて、今年度早々2つのトラブル（BL-14の超伝導ウィグラー運転停止、BL-2上流部のゲートバルブの不具合）が発生しました。詳しくは現状記事をご覧ください。このトラブルにより、ユーザーの皆様には大変なご不便をおかけしましたことを、お詫び申し上げます（http://pfwww.kek.jp/whats_new/announce140424.html, http://pfwww.kek.jp/whats_new/announce140423.html）。今後このようなトラブルを最小限にするべく、より一層気を引き締め、PFの運転を行っていきます。

PFの将来計画について

PFの運転開始からすでに32年間の経過し、同規模の放射光施設では世界最古の放射光施設となっています。PFが支えてきた放射光科学を今後どのように継続発展させていくのか、長期計画を考えながらも具体的な短期・中期将来計画を至急に明らかにしていく必要があります。この1年間、PF将来計画について、PFの内部ではもちろん、物構研の中でも2つのワーキンググループを立ち上げ、集中的に議論をしてきました。KEKの研究推進会議でも議論を行い、KEKロードマップ¹⁾の附記として、昨年10月29日に次のような文章を掲載しました。「KEKは長期計画として3 GeV ERL計画を掲げているが、そこに至るまでの中期期間において、放射光コミュニティから強い要望のある蓄積リング型高輝度光源の実現に向けて先導的役割を果たす。このためKEKは、オールジャパン体制を考慮しつつ具体的な検討を開始した。」この「放射光コミュニティから強い要望のある蓄積リング型高輝度光源」というのは、日本学術会議のマスタープランに日本放射光学会がコミュニティからの要望として提出した「高輝度光源」のことです。オールジャパン体制のもとで、この高輝度光源実現のために、KEKが具体的にどのような協力を行っていくことができるのか、放射光学会をはじめ幅広い放射光コミュニティや関連機関と十分に情報交換を行いながら、慎重かつ速やかに具体的方策を考えていきたいと考えていま

す。一方PF-UAでは、「PFおよび日本の放射光科学の将来への提言」をまとめられているとお聞きしています。この提言書をもとに、PF内、物構研内、そしてKEK内で、PF将来計画に関して十分に議論を重ね、放射光コミュニティのご期待に添えるよう努力していきます。

PFの運営について

今年度は、PFプロジェクト経費の大幅減額、一般運営費交付金の不足、そして施設運転のための電気代の高騰という三重苦により、ユーザー実験時間の確保が大変困難な状況となっています。PFプロジェクト経費の中で削れるところは削り、産業利用や優先利用等の施設利用費の一部も光熱水料費に振り替える予定でありますが、ユーザー実験時間として年間約2700時間程度の確保が精一杯であると想定しています。旅費支給の基準に関しても見直させて頂き、ユーザーの皆様にはご不便・ご心配をお掛けしております。PFとしましては、運転時間回復を目指して、できる限りの努力をしていく所存です。PF-UAで行って頂きましたアンケート結果などを参考にさせて頂き、現在、この危機的状況により教育・研究にどのような悪影響が出るのかをまとめる作業をしています。また関連する学協会からの御意見も合わせてまとめ、PFおよびPFユーザーの現状を文科省に報告する必要があると考えています。どうぞご協力をお願い致します。

さて、この数年間取り組んできました、VSX挿入光源ビームライン（BL-2, 13, 28）と短直線部ビームライン（BL-15）の整備計画も順調に進み、ほぼ収束してきました。この夏には、BL-13およびBL-28の挿入光源の更新を計画しております。ただし、これらの挿入光源を設置した場合、PFリングの焼きだし運転や軌道補正データの取得が必要となるため、ユーザー運転時間を数日間消費することになります。そのため、挿入光源の設置時期に関してはユーザーの御意見や諸事情を考慮の上、予定通り設置を行うかどうかを再考しています。

一方、限られた予算・マンパワーの中で効率よく共同利用を行い、PFの研究教育活動を最適化する目的で、放射光第一第二研究系のグループ体制を昨年度初めより見直してきました。新しく導入しましたBeamline Group Layer, Engineering and Administration Group Layer, Working Group Layerの3層構造（<http://pfwww.kek.jp/orgchart/indexj.html>）は、うまく機能してきたと考えています。今後、将来光源でのサイエンスを目指して、いくつかのWorking Groupが立ち上がっていくと思います。これらのWorking Groupが、PF-UAのユーザーグループと連携を取りながら、将来の放射光科学の土台となれば良いと考えています。

¹⁾KEKロードマップ（<http://www.kek.jp/ja/About/OrganizationOverview/Assessment/Roadmap/roadmap2013-J.pdf>）